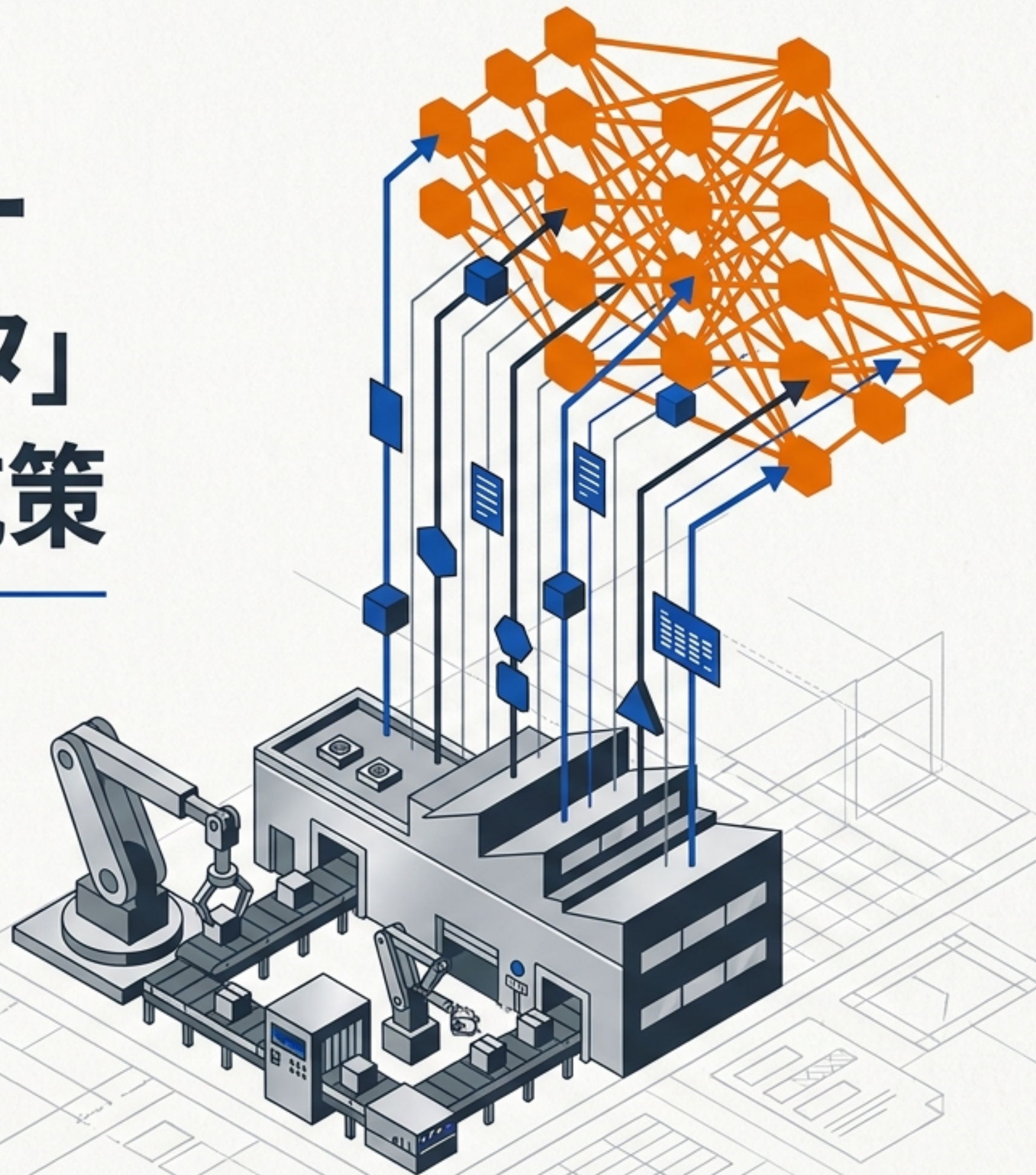
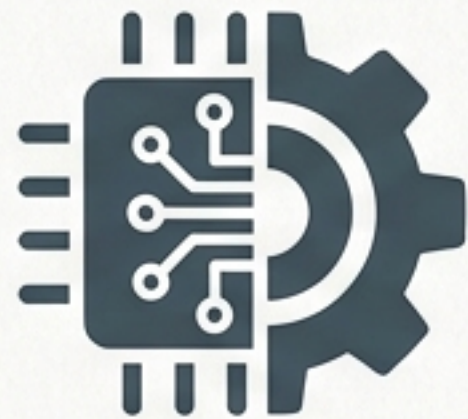


# 海外プラットフォーム による日本「現場データ」 囲い込みの動向と対抗策

フィジカルAI時代の知財戦略と  
産業競争力における「見えない脅威」



## ゲームの変容



Web Text / Scale



Physical World / Operations

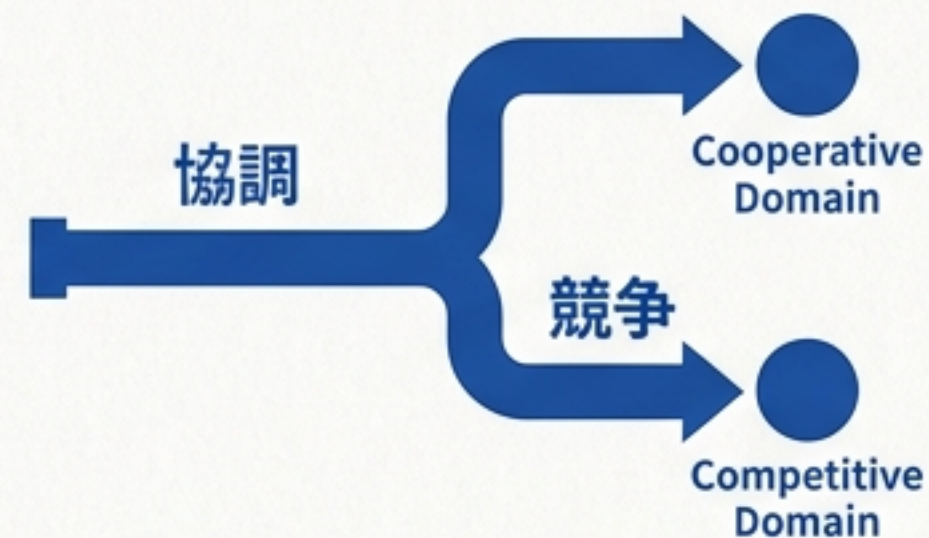
競争軸はWeb上の「規模」から、  
現実空間のデータを継続取得し改善  
を回す「統合力・運用力」へ移行。

## 構造的脅威



国産体制が整う前に、日本の優良な現  
場データ (実運用・実走行) が海外基盤  
モデルの学習に直結する提携が先行。

## 対抗策



「協調領域/競争領域」の分離と、  
国産基盤へのデータ還流を担保する  
強靱な契約設計への転換。

## 言語AI / 生成AI



# 「10万年分」

に相当する仮想空間のテキストデータ

- ボトルネック：計算資源（GPU）の確保

## フィジカルAI



# 「1万時間分」

規模にとどまる圧倒的な希少性

- ボトルネック：良質な現実世界の「動作データ」の収集

フィジカルAIの勝者はアルゴリズムではなく、  
「圧倒的に不足している良質な現場データ」を握る者である。

## 製造現場

金型づくり、精密組立の手順、  
職人の絶妙な力加減

## 小売・サービス

2万店舗超の高頻度・  
高品質なオペレーション

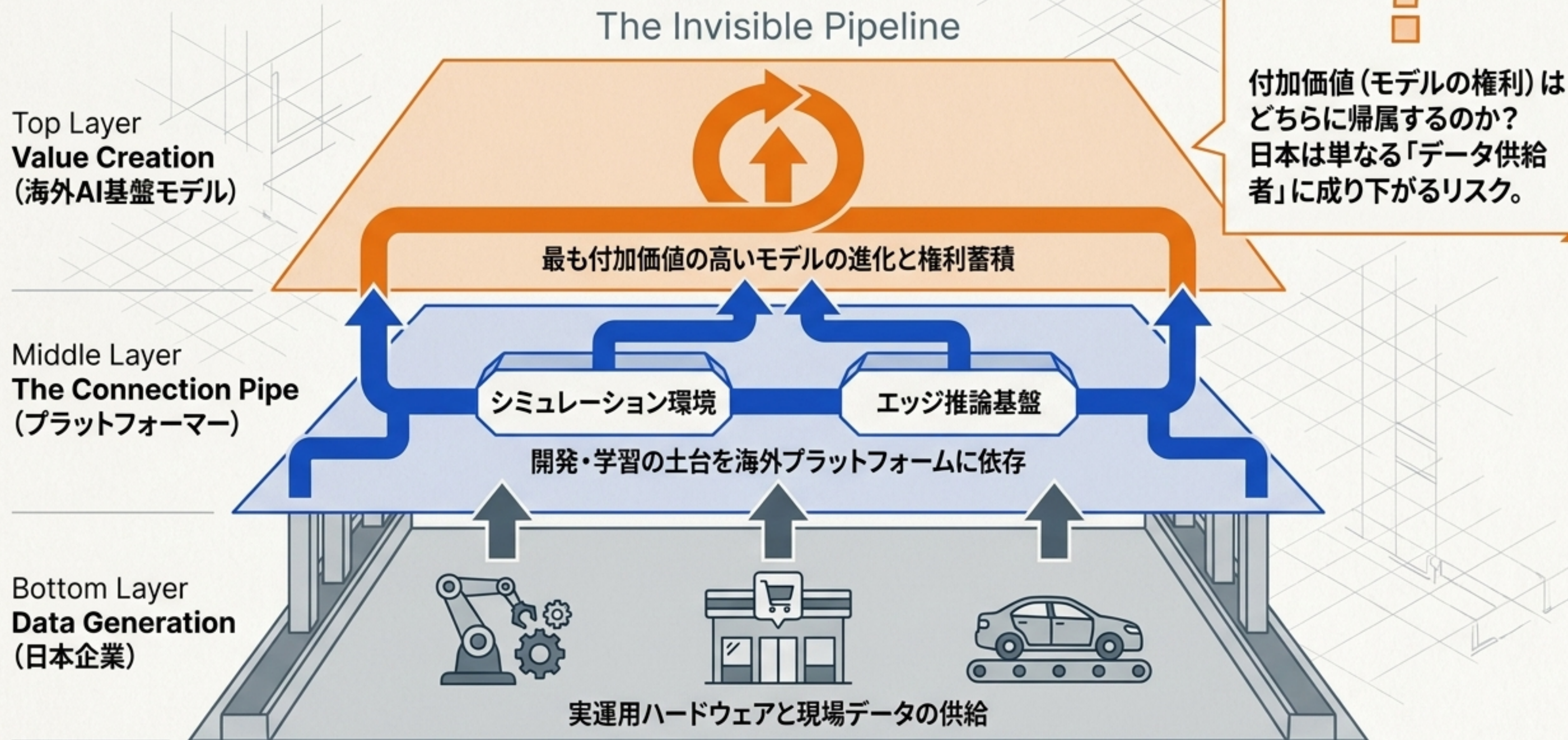
## 介護・生活

世界最高水準の  
介護の所作と対人ノウハウ

“ 経済産業省も「現場データのAIレディ化」  
を日本の勝ち筋に設定。  
この「現場知」を誰が資産化するかが、  
次世代産業の覇権を決める。 ”



# 先行する「囲い込み」のメカニズム



## 脅威の具体事例：3つの最前線に共通する構造

領域・陣営	対象プロジェクト	提携の核心構造	知財・データ上の含意
産業用ロボット (NVIDIA × ファナック/ 安川電機等)	Isaac / GROOT エコシステムへの統合 (200万台超の実績)。	ロボットモデルを仮想空間の「標準アセット」化。	【プラットフォーム依存】 開発・シミュレーションの 土台が海外に握られる。
小売・汎用ロボット (Physical Intelligence × Telexistence/セブン- イレブン)	VLA基盤モデルの共同開 発。	2万店超の実店舗データ でモデルを学習し再展開 するループ。	【実運用データの直結】 高品質な現場データが米国発 基盤モデルの中核学習資源へ。
自動運転・量産車 (Wayve × 日産)	身体性AIソフトの次世代 「ProPILOT」統合。	量産車の巨大な実走行デ ータを継続的改善に利用。	【巨大データの提供】 基幹産業のデータが海外ス タートアップの強化に接続。

## 事実と懸念の境界線：冷静なリスク評価

### ✓【確認できる事実】

- 競争軸が「現場データ＋統合力」へ移行している（経産省公式見解）。
- NVIDIA, PI, Wayveと日本企業による提携・共同開発の存在。
- 日本の実運用データが海外モデルの学習・改善に「接続」されるシステム設計。

### ⚠【懸念・分析にとどまること】

- 契約条件は非公開。「独占契約でデータを押さえられた」という確証はない。
- データ権利帰属、学習利用条件が海外側に完全に有利かは不明。

「完全に独占された」と断定はできない。しかし、日本側の権利化体制が整う前に、囲い込みにつながりうる構造が先行形成されていること自体が最大のリスクである。

# 迫り来るタイムリミットと「守りのジレンマ」

## タイムラインのギャップ

海外プラットフォーム提携（既に量産・実装フェーズへ）

2024

2025

2026

2027

2028

日本側体制（AIRoA国産基盤  
ベータ公開・データスペース構築目標）

「致命的なスピードのギャップ」

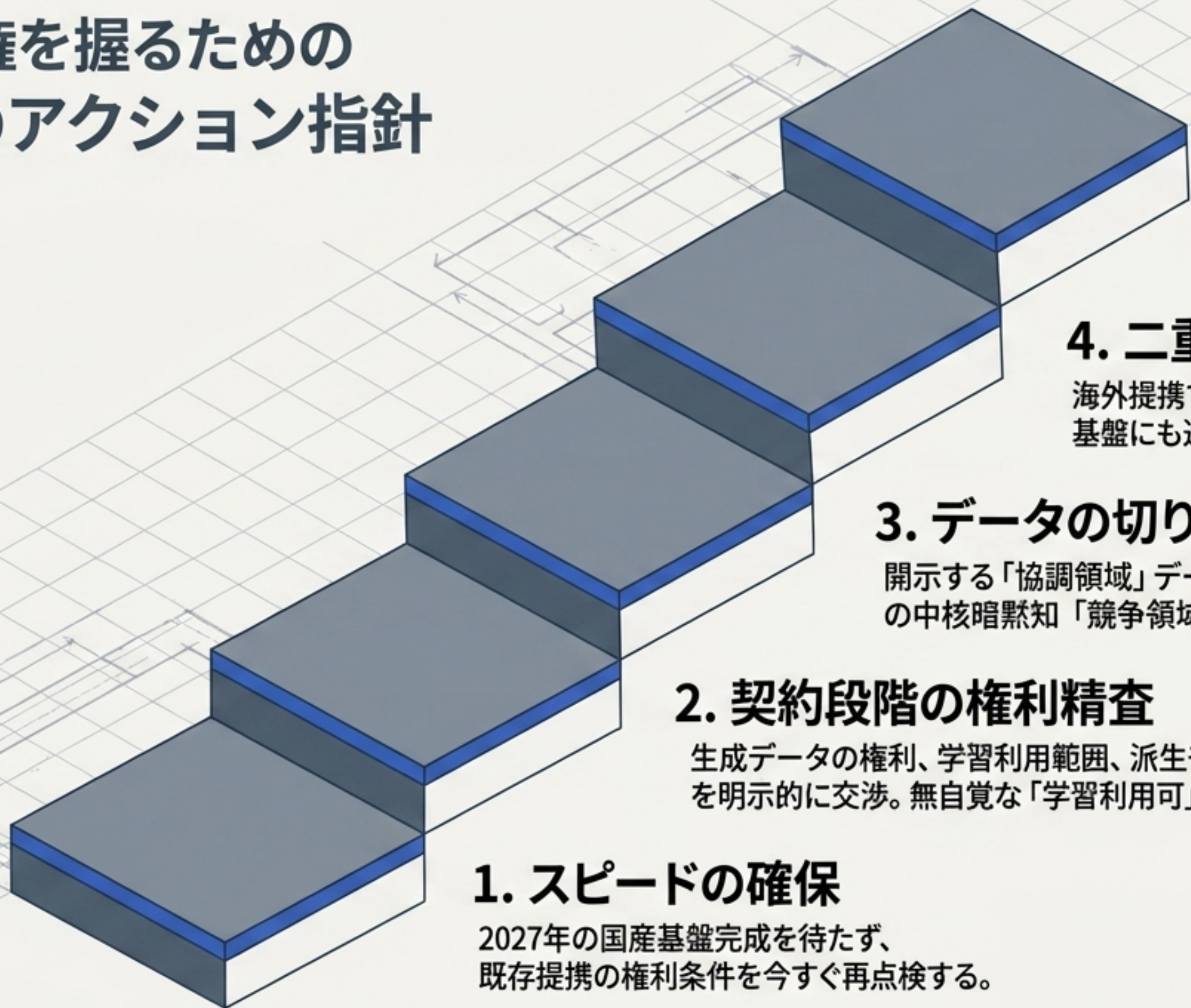
## 守りのジレンマ

「守るための困り込み」  
- 自社データを抱え込み、横断的な連携が進まず孤立。



「個別依存への転落」  
- 資産化できず、結果的に海外プラットフォームに個別吸収されるジレンマ。

# 主導権を握るための 5つのアクション指針



## 1. スピードの確保

2027年の国産基盤完成を待たず、  
既存提携の権利条件を今すぐ再点検する。

## 2. 契約段階の権利精査

生成データの権利、学習利用範囲、派生モデルの帰属  
を明示的に交渉。無自覚な「学習利用可」を回避。

## 3. データの切り分け

開示する「協調領域」データと、秘匿すべき自社  
の中核暗黙知「競争領域」を明確に分離。

## 4. 二重資産化の設計

海外提携で得た知見・データを、AIRoA等国産  
基盤にも還流させる「取り分」を契約で担保。

## 5. 経済安全保障

現場データを戦略資源と位置づけ、越境移転  
やトラスト基盤の管理方針を全社で定める。

## 実務者のための提携リスク診断チェックリスト（脅威度の閾値）

### 1. データの権利

生成される現場データの権利は「日本側」に残るか？

### 2. モデルの権利

学習済みモデル・派生モデルの権利は誰に帰属するか？

### 3. 競合展開の制限

海外側が、その学習モデルを自社の競合他社へ横展開できない契約になっているか？

### 4. 還流メカニズム

国産基盤（産業データスペース等）へのデータ/知見の還流条項は含まれているか？



判定：上記の問いに対し、すべてが「海外側有利（No）」となる場合、それは実質的な「現場知の独占的資産化」を許す契約である。知財戦略上、最優先の是正対象とすべきである。

**海外提携を否定するのではない。  
主導権とデータ資産の『取り分』を  
確保する強靱な契約設計こそが、  
フィジカルAI時代の真の勝ち筋である。**

現場データは日本の最大かつ最後の優位性。  
これをいかに守り、育て、還元させるか。

今、経営の知見が問われている。